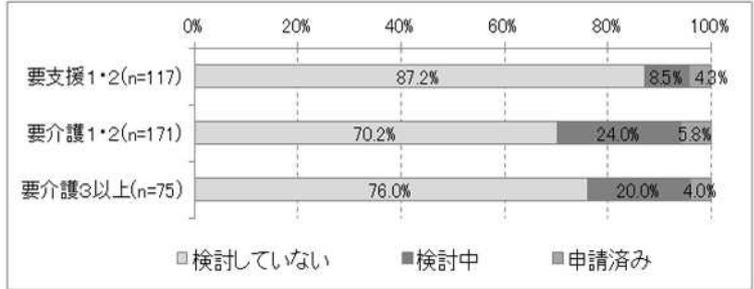


在宅介護実態調査概要

1 要介護度に関する分析

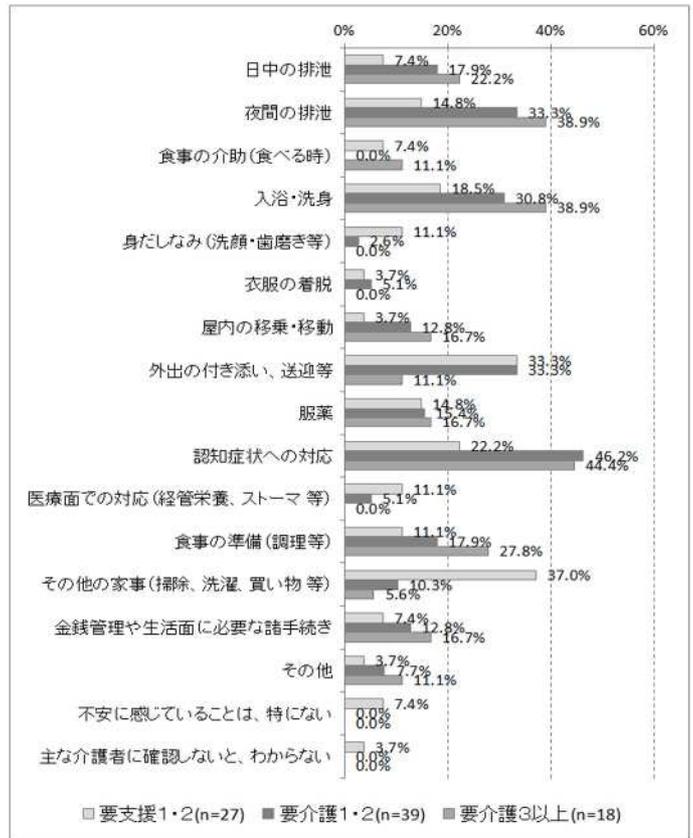
(1) 要介護度別の施設等検討の状況を見ると、要介護度が施設等検討に与える影響は、要支援1・2と要介護1以上の間で一定の差がみられる。前回調査では、介護度が重度化するほど、施設等の検討中と申請済みの比率が高くなっていた。

要介護度別・施設等検討の状況



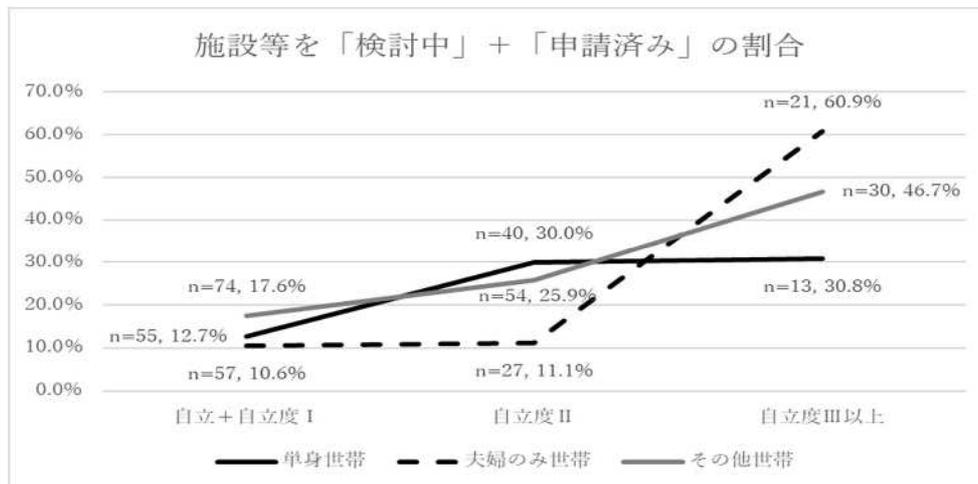
(2) 主な介護者が不安に感じている介護について要介護度別に見ると、要介護1・2で「認知症状への対応」「夜間の排泄」が要支援1・2と比較して20ポイント程度高くなっている。この傾向は前回調査よりも顕著になっている。

要介護度別・介護者が不安に感じる介護



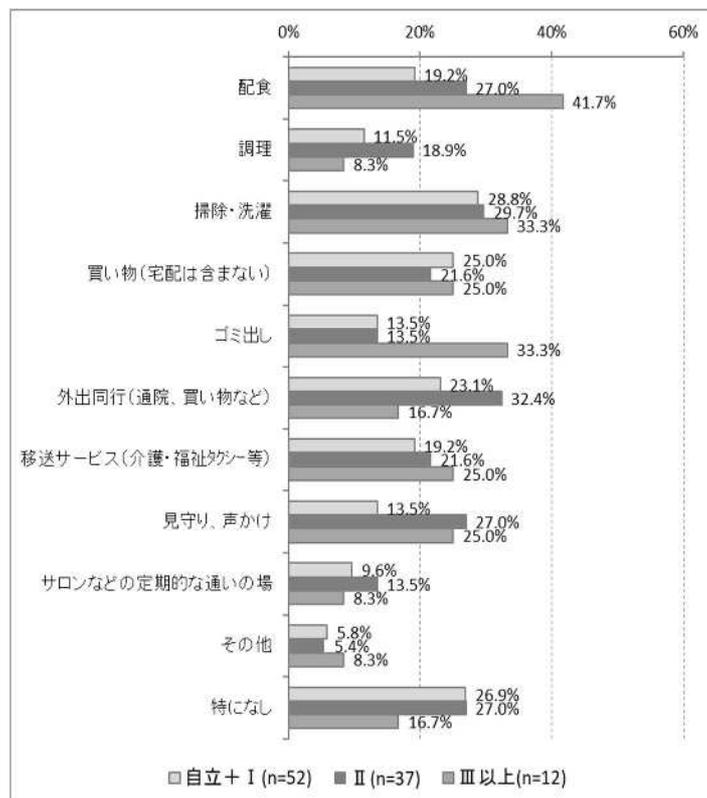
## 2 認知症自立度に関する分析

(1) 認知症自立度による施設等検討への影響は、特に夫婦のみ世帯やその他世帯で大きい。単身世帯では<自立+I>から<II>にかけて、夫婦のみ世帯では<II>から<III以上>にかけて施設等検討の割合が高くなる傾向がみられる。



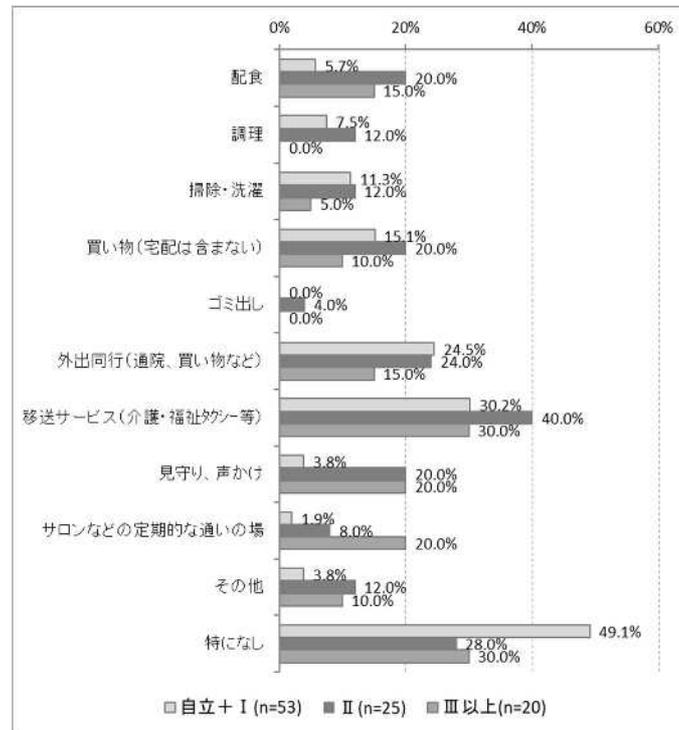
(2) 単身世帯においては自立度 II において施設等検討の割合が高まる傾向があったが、在宅生活継続に必要と感じる支援・サービスについてみると「見守り・声かけ」「配食」が自立度 II において高くなっている。前は「移送サービス」が特に高くなっていた

認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス (単身世帯)



- (3) 夫婦のみ世帯においては自立度Ⅲ以上において施設等検討の割合が高まる傾向にあったが、在宅生活継続に必要と感じる支援・サービスについてみると、「サロンなど定期的な通いの場」についてⅢ以上で一定のニーズがみられる。前回は「移送サービス」が特に高くなっていた

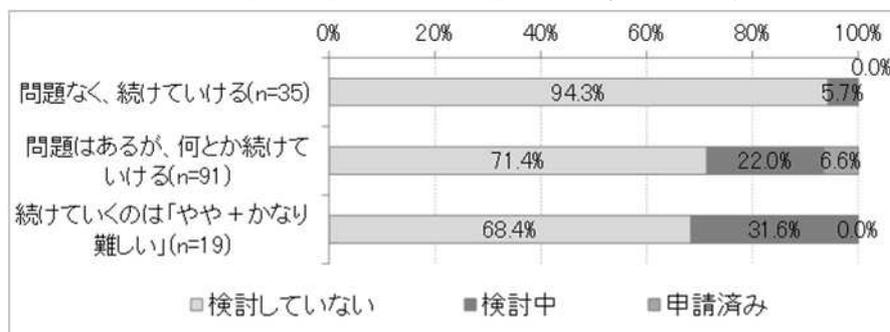
認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス  
(夫婦のみ世帯)



### 3 就労継続に向けた支援に関する分析

- (1) 就労継続見込別に施設検討入所の状況を見ると、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」「続けていくのは「やや+かなり」難しい」で20ポイント台の開きがある。

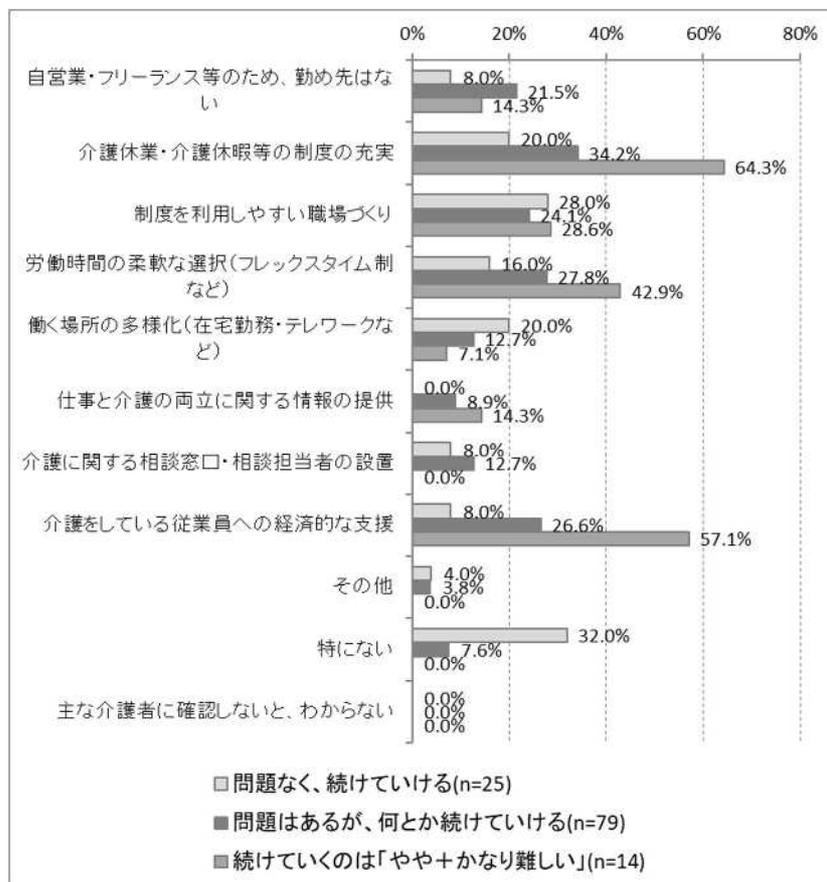
就労継続見込み別・施設等検討の状況



- (2) フルタイムまたはパートタイムで就労している介護者の就労継続見込別に、効果的な支援についてみると、就労継続が困難な介護者ほど「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「介護

をしている従業員への経済的な支援」「労働時間の柔軟な選択」が多くなっている。前回と比較すると「介護をしている従業員への経済的な支援」が大幅に増加している。

就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援  
(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



#### 4 介護サービス料の支払方法

介護サービスの料金を支払うとき、「サービス1回あたりの料金が決まっており、ひと月の利用回数に応じた料金を支払う方法」が60.1%、「ひと月あたりのサービス費用が決まっており、何回利用しても同じ料金を支払う方法」が25.5%であり、同様の調査をニーズ調査でも行ったところ、それぞれ44.8%と39.5%となり、比較すると在宅介護実態調査の方が利用回数に応じた支払う方法の割合が多くなっています。

